

脱薬物へ誓い新たに 沖縄ダルク 20周年でフォーラム



「Constant Change～絶えざる変化」をテーマに開かれた沖縄ダルク開設20周年記念フォーラム＝20日、那覇市西の県男女共同参画センターでいる

薬物依存症リハビリ施設の沖縄ダルク（森廣樹代表理事）は20日、開設20周年記念フォーラム「Constant Change 絶えざる変化」を那覇市西の県男女共同参画センターで開いた。当事者や支援者ら約190人が参

加し、1994年の開設以来、千人を超える利用者が薬物依存からの回復を目指し活動を続けてきた経緯を振り返った。利用者や卒業者がトークライブやエイサーで節目を祝いながら、支援者への感謝と新たな誓いを込めた。

来賓あいさつで那覇保護観察所長の原沢和茂さんは「（回復を目指す人が）社会から排除されれば、本人や家族が頑張っても回復は困難になる。地域社会の理解が必要だ」と呼び掛けた。

講話した琉球病院精神科医の福田貴博さんは、近年は覚せい剤などの薬物依存が減り「危険ドラッグや睡眠薬・安定剤など処方薬（の依存）で来院する人が増えている」と報告した。

前施設長の三浦陽二さんは、全国59地域75施設に広がったダルクで活動するスタッフのうち、約3分の1が沖縄ダルク出身であるとし「イチヤリバチョーデーが息づく沖縄の人々に支えられてきた」と述べた。代表理事の森さんは「大きな節目を迎えられたことに喜びを感じる」と語った。